

要 旨

The Relationship Between Motivations and Procrastination in Learning English : Can Learners With Strong Motivations Avoid Procrastination?

金 衿佳

大学生における学習の先送りは身近であり、彼らの学習の達成度に影響を及ぼす問題である。学習における先送りについて多くの研究者によって研究が進められている。しかし、学習の先送りの原因や対策はまだ明らかになっていない部分も多く、日本人大学生を対象とした研究は少ない。また学習者が外国語として英語を学ぶことを考慮すると、英語学習の動機づけと学習の先送りの関係について研究をすることは有意義である。この論文の研究課題は以下の3点である。(Ⅰ) 英語学習において高い動機づけのある学習者は先送りを防ぐことができるのか。(Ⅱ) 内発的動機づけと外発的動機づけのどちらがより効果的に先送りを防ぐのか。(Ⅲ) 課題の種類は先送りに影響するのか。

本研究は同志社女子大学英語英文学科の学生と同志社大学英文科の学生、計93名を対象として実施した。参加者には英語学習の動機づけ、課題の先送り、学習者の特徴について尋ねた質問紙への回答を依頼し、データを収集した。

この結果、次のことが明らかになった。研究課題(Ⅰ)に対して、(1) 英語学習の動機づけが高いからと言って、英語学習の先送りを防げるとは限らない。研究課題(Ⅱ)に対して、(2) 高い内発的動機づけは先送りを防ぐために有効である。最後に研究課題(Ⅲ)に対して、(3) 簡単な課題、スマートフォンやタブレットなどで回答が可能な課題、他者と協力して行う課題については先送りをしない傾向にある。(4) 学習者が苦手とする課題、難しく時間のかかる課題、教員からのフィードバックのない課題については先送りをする傾向にある。

以上の結果より、日本人大学生の英語学習における先送りを回避するために、教師は学習者の内発的動機づけを高める授業内容の準備が重要である。また、課題を与える際に生徒が意欲的に取り組めるよう工夫をすることの重要性が明らかになった。